日本天文学会　早川幸男基金による渡航報告書

Surveying the Universe

渡航先―オーストリア
期　間―2005 年 2 月 13 日–19 日

今回，私は，2005 年 2 月 13 日（日）–19 日（土）までオーストリアのオーバーグーグルにて開催された，SISCO (Spectroscopic and Imaging Surveys for COsmology) 主催の国際研究集会 “Surveying the Universe” に参加しました．参加人数は 100 名弱で，学生による口頭発表やポスターのほかに，James Peebles や John Peacock など著名な宇宙物理学者による講演が行われる，共同勉強会といった雰囲気の研究集会でした．

私は “Lyα Line Spectra of the First Galaxies: The Effect of Aspherical Deceleration of the HI Halo” というタイトルで口頭発表を行いました．ApJ で出版されている私の研究をさらに発展させたもので，現在 ApJL に投稿中の研究内容の発表です．発表は研究集会初日で，予定ではあの Peebles と Simon White による講演後，学生最初の発表でした．しかし急遽予定が変更されて White が最初に，続いて私ということになりました．私にとっては初の国際研究集会で不慣れな英語での発表，しかもあの White の後ということでこれまでにないほど緊張しました．準備の段階で，話すことは全部覚えて臨んだのですが，緊張のあまりか頭が空っぽになり，原稿を手に持っての発表をしてしまいました．発表の初めに自己紹介を兼ねて，アメリカの Universal Studios Hollywood に行って E.T. のアトラクションに乗った際に E.T. に名前を間違えられたことを話し，「Masakazu は発音が難しいので私の名前は気楽に “Masa” か論文著者名 “MARK” で呼んでください」と言ったところ，これがひじょうにウケました．続いて研究の背景，研究手法，結果を簡潔に話し，15 分弱の発表を終えました．言い足りないこともいくつかあって，自分としては反省の多い発表でした．

しかし周囲の評価はなぜか非常に高く，なかには私の発表が一番面白く印象に残っていると話す方もいました．また，食事や休憩の際に話す人すべてが “Hi, Masa”, “Hi, MARK” と言って私の名前を覚えていました．私が自分の名前を言って “I know” と言われなかったのは，私の発表時にまだ会場に到着していなかった数人だけでした．いろんな方から，「キミはまだマスターのうちに名前を覚えさせられたのだから最高の発表だった」，「研究内容も非常に簡潔に伝えていて何が大事なのかよく分かった」という最高の誉め言葉をいただけました．原稿を見ながらの発表も初めてなのだから気に病むことはなく，英語の発音もきちんと通じたと言っていただけました．数人の方とは研究内容に関して議論を交わし，論文を読みたいと興味を持っていただくこともできました．

この研究集会に向かう際は不安と恐怖と言った方が近い感覚でしたが，今では，自分の名前を覚えてもらうことができ研究内容にも興味を持っていただけて，さらには英語の listening & speaking の練習にもなる最高の体験ができたと感じています．最後になりましたが，私の海外渡航を援助下さった早川幸男基金とその関係者の方々に深く感謝いたします．

小林正和（京都大学）